

# 桜十字熊本宇城病院(熊本県宇城市)

病院:199床

障害者施設等一般病棟/99床

医療療養病棟/100床

介護医療院:58床

実施日時:2024年11月21日



## 10年後も共に働く！宇城病院ノーリフティングケアへの挑戦

—病院での導入困難といわれる中、どうやって実現したのか—

# はじめに

## ノーリフティングケアとは？

「持ち上げない」「抱え上げない」「引きずらない」をモットーに、  
患者さまとスタッフの双方において安全で安心なケア



スライディングシートやリフトなどの福祉用具を積極的に活用することで、  
患者さまの褥瘡予防やスタッフの腰痛予防に取り組むことができます。

# 病院でのノーリフティングケアの成功事例なし！

## —病院での導入が難しい理由—

ケアするのに余計に時間がかかる

リフトに乗せるより抱えたほうが早い…

リフト操作を覚えるのが面倒くさそう…



腰痛があっても我慢して業務を続けたり、人の手を使わない罪悪感から福祉機器の利用が進まないケースが多く、病院での成功事例は多くないそうです。

リフトなどの福祉機器を導入だけでは成功しません。

『なぜ取り組むのか？』

すべての職員が理念をしっかりと共有し、継続的に取り組む体制づくりが重要です！

## はじめに

## ノーリフティングケアの導入を決断した理由

10年後も同じ仲間で働き続けられる職場を作りたい！



福祉用具を積極的に活用して身体に負担の少ないケアを実践

大分の社会福祉法人「大翔会」  
ノーリフティングケアとの出会い

大翔会は、リフト等の福祉用具を積極的に活用し、少人数で効率的に質の高いケアを提供する職場づくりを進めています。この視察で、高齢者の穏やかな表情と笑顔で働く職員の様子が印象に！

「腰痛などで体力に限界を感じて辞めざるを得ない職員も、これなら長く働き続けることができる」

いざ！実践へ

# 全職員でミッションを共有するために 院長がノーリフティングケアへの挑戦を宣言！



全職員の前で院長が宣言

全ての職員が『なぜ、取り組むのか？』というミッションを共有できるように、宇城病院の方針として、ノーリフティングケアに取組むことを決定しました。

2022年10月 –  
全職員の前で院長による宣言があり、  
本格的にスタートしました。

## ムーブメントを興すには？

キーパーソンを中心に、活動を推進するコアチームを結成！



看護職の大森さん

事務長、補佐、看護部長らで人選し  
コアチームを結成！

ノーリフティングケアに取り組みたい！と  
手を挙げたスタッフがいました。  
大森さん（看護職）です。

ただやる気のあるスタッフ1人では、  
“うねり”は興りません。  
事務長、補佐、看護部長らで人選して、  
コアチームを結成しました。

スタートしたが…。

リフト操作に時間がかかり、ネガティブな意見も…。



ベテランと初心者をペアにしたチームを編成

リフトの装着から操作など、  
患者さまお一人の入浴に40分以上かかり、  
「なぜ、こんなに時間のかかるケアをするのか…」  
ネガティブな意見もありました。

習得しているスタッフとそうでないスタッフを  
ペアにするなど、チーム編成にもこだわりました。

## どうすればできるか！

ネガティブな意見も受け止め、あきらめずに考え抜く



### 多職種で毎週ミーティングを開催

院長を中心とした委員会を月1回、  
実務担当者によるミーティングは毎週開き、  
「課題の抽出→解決」を繰り返しています。  
看護・介護、リハなど多職種で議論します。

例えば、入浴はどうしても時間がかかるため、  
月曜～日曜でスケジュールを組んでいます。  
入浴の回数を減らさず、「どうすればできるか」をみんな  
で考えています。

## 職員のやる気に入った瞬間

## 患者さまの笑顔=成功体験の共有が転換期に…



職員の意識が大きく変化したきっかけは  
“患者さまの笑顔”

何年も寝たきりのAさま。  
寝返りも痛がり職員の手を振り払うほどでした。  
そのAさまがリフトを使って起き上がった瞬間に見せた穏やかな表情に、職員一同、驚愕。

「成功体験を重ねたことで、スタッフも変化し、一気に機運が高まりました」と米原看護部長は振り返ります。

# ノーリフティングケアの浸透へ

## 習慣化に向けて①

### 朝礼でボディメカニクスの動きを実践



#### 毎日朝礼で基本姿勢を復習

ノーリフティングケアでは、ボディメカニクスの技術が基本となります。

宇城病院ではノーリフティングケアを習慣化するために、毎日朝礼でボディメカニクスの基本姿勢を、みんなで復習しています。

## 習慣化に向けて②

### 必要時、すぐに実践できる環境づくり



病室ごとにスライディングシートを常備しています



職員は常にポシェットに入れて携帯

#### 実践できる環境づくりの工夫

必要時にすぐ使用できるよう、病室ごとにスライディングシートを常備しています。

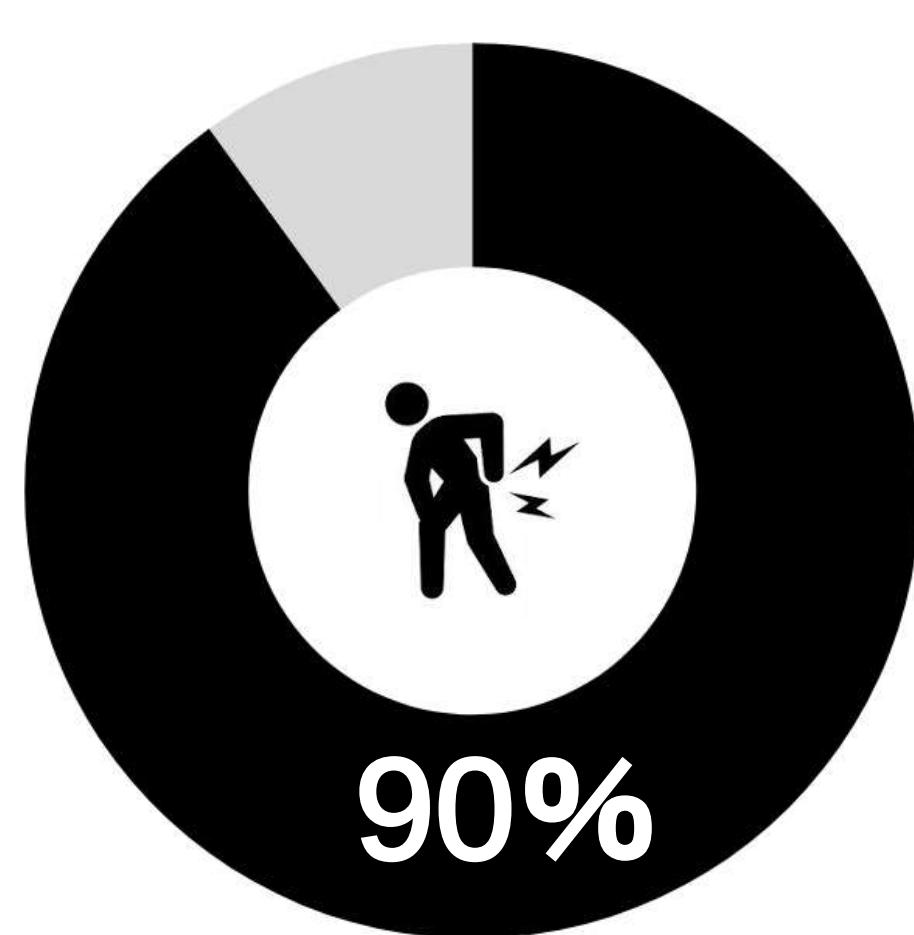
圧抜きをするグローブは職員に2枚ずつ配布。職員は常にポシェットに入れ携帯しています。

“ポシェットを持っている=研修修了者”となっています。中途入職者にもしっかり研修をしてもらい、技術を伝えています。

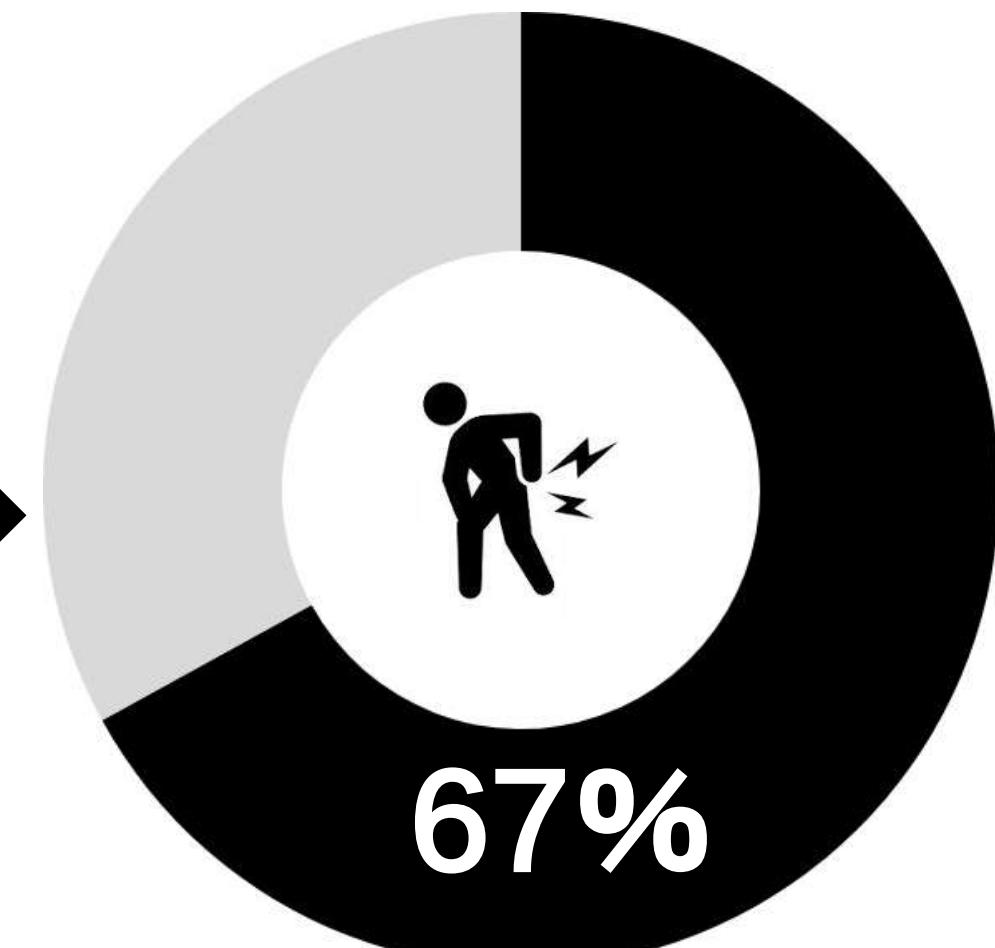
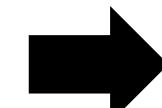
## 職員満足の効果検証

定期的な腰痛調査を実施し、職員への効果を検証！

「腰痛あり」と回答した人の割合



4階病棟22年10月調査



4階病棟23年11月調査



23%  
DOWN ↓

# 患者さま・職員満足につながるケアで 病院としてのブランド力も向上



## 患者さま満足

衣服のしわでも皮膚を圧迫します。圧抜きを行うことで皮膚にかかる力を除くことができます。

**「患者さまが心地よいと感じるケア」**で褥瘡の発生も抑えられています。



## 職員満足

腰痛を訴える職員が減少しました。体力的に働くことに限界を感じていたスタッフも、「これなら安心して長く働き続けることができる」と、などの表情を浮かべています。



## 採用面での効果

ノーリフティングケアに取り組んだことで、  
**「職員を大切にする病院」**として認知され、ノーリフティングケアに关心のある人の応募にもつながっています。

# まとめ

# 宇城病院が ノーリフティングケアを実現できた理由

1. 院長の決断

→病院としての姿勢を示した

2. 1人のスタッフをみんなが支えた

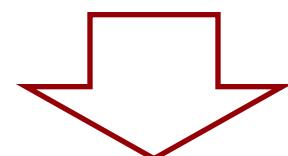
→組織が一枚岩になった

3. 意見を出し合い進化改善できた

→常にどうすればできるかを考えた

# 宇城病院が ノーリフティングケアを実現できた理由

- 困難な課題を乗り越えてきたという自信
- 意見を出し合える風通しのよい環境
- 取り組みを推進するリーダーたちの存在



「組織」の強さに！

# 病院の高稼働を維持しつつ全面リニューアルを敢行

1978年 病院開設

2018年 桜十字グループが承継

2019年 桜十字熊本宇城病院に改名

2022年 全面改修



## 開かれた看護部長室　自由に意見を出し合える環境



安心して「意見が言える」環境

看護部では  
中途入職者との座談会を定期的に開き  
意見を取り入れています。

また、看護部長室のドアはいつでもオープンに！  
職種や勤務年数に関わらず、様々なスタッフが  
気軽に立ち寄り、病棟で気になることや相談事をしていきます。

安心して「意見が言える」環境があります。

## 事務長・看護部長・補佐 取組みを推進するリーダーの存在



東事務長



米原看護部長



村上事務長補佐

さらに、挑戦する組織へ

# 人と地域を笑顔に！ 地域貢献へのチャレンジ

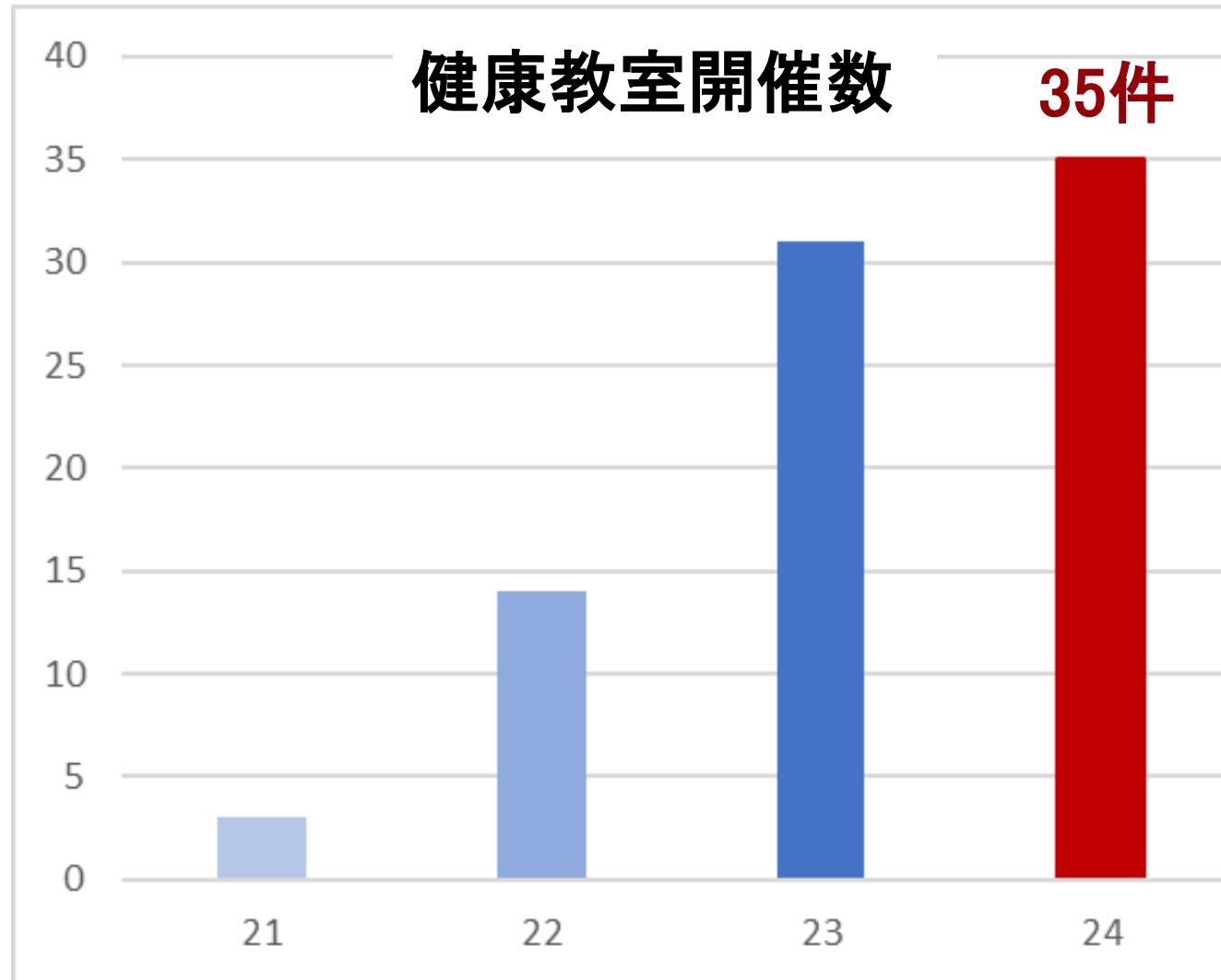


宇城市は人口約5万7,000人、高齢人口率34.6%。多くの自治体同様、人口減少地域です。宇城病院では、リハビリスタッフ（60名在籍）を中心に多職種が地域に飛び出し、地域包括ケアを担う一員として活躍しています。



# 人と地域を笑顔に！

## 宇城市健康づくり推進事業への参画



2021年から開催件数も増加！  
2024年度は既に35件の申し込みがきています



宇城市健康づくり推進事業として出張健康教室を実施。  
2023年度は約700名が参加。健康講座の参加者が病院を訪れることも

## 人と地域を笑顔に！

### 行政・地元企業の3者合同の健康イベント

宇城市・イオンモール宇城・桜十字熊本宇城病院の3者合同で、年4回の地域住民に向けた健康イベントも開催しています。ウォーキング、ヨガ、筋トレのほか、野菜ブーケづくり、野菜の模写など講座の内容も充実。高齢者だけではなく、様々な世代が参加しています。



# インタビュー

# 職員の腰痛ゼロ 患者さまの褥瘡発生ゼロに 近づけることが目標です！

ノーリフティングケアを通じて自分自身成長したと感じています。目標達成のためには、グローブやスライディングシートなどの使用頻度が重要で、リフトなどの器具が備わっていること以上に、職員ひとり一人の意識が大切だと感じています。

職員が笑顔で働いている病院は患者さまも笑顔でいられる病院です。少しでも理想に近づけるように頑張っていきます。



4階病棟 大森Ns



田中リーダー(PT)

## 宇城病院の「あきらめない」 リハビリを支えたい！

リハビリ科は、患者さまの望むことは何か？その望みに近づける、近づいているという実感をどうしたら患者さまと共有できるのかを考え、リハ計画を作成し、実行しています。

自力での起立が困難な患者さまが、機器を利用して立ち上がれたときの「できた！」「動けた！」という、一瞬の感動を患者さまと共有する”ことを大切にしています。

その一瞬が私たちの原動力となり、もっと患者さまの笑顔を引き出したいという力になっています。よい意味で宇城病院のリハビリ科は「あきらめの悪い集団」です（笑）

# 患者さまに快適な療養環境を 臭気対策の実践

宇城病院では、患者さまに快適な療養環境を実現するために「妥協のない清潔さ」をモットーとし臭気対策に取り組んでいます

看護・介護職をはじめ、多職種スタッフとも声を掛け合いながら、患者さまへの、より清潔で快適な療養環境の維持、提供をチーム全体で意識しています。

マニュアルを整えると同時に、常に責任者レベルで運用の見直しと確認を行っています



米原看護部長

# 患者さまに快適な療養環境を！臭気対策の実践

患者さまに快適な療養環境を提供するために、おむつ交換、廃棄時の臭気対策を徹底しています。  
患者さまや面会に訪れるご家族からも「臭わない」「さわやか」とのお声をいただいています。

01

## おむつ交換時の業務フローで換気を徹底

- ①病室前に「処置中」の札を掲示してドアを閉める
  - ②患者さまに声かけ、窓を開ける
  - ③おむつ交換を行う
  - ④窓を開けたまま退出しドアを閉め、札を「換気中」に交換
- ※夏季と冬季では手順は異なる

02

## おむつ交換終了時はエア抜きを徹底

- ①小袋のエアを抜く
- ②大袋の口をガムテープでしばる



03

## 当番制で清掃チェック体制を構築

病棟当番制でおむつ庫を清掃。清掃時にチェックシートで点検。

オムツチェックシート					
点検日	点検者	病棟	氏名	備考	備考
項目名	本2 本2 本3 本4				
	大袋	大袋の臭いが強い	大袋の結び目がゆるい	小袋の結び目がゆるい	小袋の結び目に便の付着がある
小袋	大袋のエア抜きが不十分	小袋に不必要なものが入っていた	小袋の結び目に手袋の巻き込みがある		

04

## 昼札で全病棟にフィードバック

点検結果は師長に報告。点検表にない気づいた点も各病棟に指摘することで対策を徹底しています。



# 地域に必要とされ 開かれた病院づくりを

宇城病院の前身の病院の歴史は古く、もともと地域に根差した病院でした。桜十字が継承した後も、元来の病院の良さはそのまま継続しようと、地域貢献活動にも力を注いできました。

また、地域活動に積極的な病院という理由で、宇城病院を選んで、就職してくれるスタッフも多くいます。地域になくてはならない病院を目指して、顔の見える、地域に開かれた病院づくりを進めていきます。

村上事務長補佐



# スタッフ一丸となって取組んだ 自信と信頼関係が強み！

大規模改修やノーリフティングケアなど、数々の課題を乗り越えられたのは現場の力です。

そして何よりもうれしいのは、地域からの評判が変わってきたこと。退院後に患者さまやご家族から感謝の手紙をいただけるようになりました。地域における役割が果たせる病院に変わっていったのだと実感しています。

院長、看護部長を中心に部署の隔てなく、現場スタッフみんなで一丸となって乗り越えてきたという自信と信頼関係が桜十字熊本宇城病院の一番の強みです。

東事務長



施設  
紹介

中庭



施設  
紹介

外来受付ホール



施設  
紹介

外来受付ホール



施設  
紹介

リハビリ室・庭園



# 施設 紹介

# 患者さま満足宣言



## 桜十字熊本宇城病院

### 患者さま満足宣言

私は、「医十字でよかった」という

は稱を發揮します。

私は、「スタッフで一丸となって、

患者さまへの医療を実現します。

私は、安心する治療を受け、医療が保たれた

環境を築きます。

私は、患者さまの立場の尊重をも

自分のものとして受け止め、解決します。

私は、優れた技術や知識を駆使し、

医療人として、人として成長します。

私は、「笑顔を発さず、

これらこもった医療を行います。

私は、「私がやらねば誰がやる」の精神で

何事にも取り組み、進化・改善し続けます。

血液浄化センター 事務局  
Let's リハ! PLUS 宇城 井上